「はちまるびん」で交通と買い物をまとめて解決！

We would like to resolve the problems of transportation and shopping together by “Hachimaru-bin”！

創価大学法学部法律学科　和足ゼミ
富谷美紀子，井岡美優，伊東咲和，大貫翔，山本葉子，神戸涼香，長谷川翔平，細川遥加
指導教員　和足憲明
創価大学法学部法律学科

キーワード：交通弱者，買い物弱者，マルシェバス

１．はじめに

本報告の問題意識は、「どうすれば八王子市における交通弱者と買い物弱者の問題を解決することができるのか」というものである。実際に全国的な傾向としても高齢化により免許の返納率が高くなっている一方で、公共交通は減便や路線廃止という状況になっており、交通弱者が増加傾向にある。また、買い物弱者も増加傾向にあり、87.2%もの自治体が、「対策が必要」と考えているが、コミュニティバスや移動販売車の運営はうまくいっていないところも多くある。これらの問題の担当省庁は、交通弱者については国土交通省、買い物弱者については農林水産省および経済産業省が担当している。しかし、これらの2つの問題は重なる部分も多い。そのため、両者をまとめて検討する必要があるのではないかと考える。

よって、本報告では、交通弱者と買い物弱者を救うため、交通と買い物の両方を兼ね備えた「マルシェバス」を提案する。

２．現状分析と課題

本報告は上記の問題意識から、（1）八王子市域内移動における公共交通の不便さと（2）八王子市域内における買い物弱者の存在という課題を抽出した。

（1）八王子市（2023）によれば、市街へ移りたい理由として「交通の便が悪い」と回答した人が45.7%と最も多く、例年よりも増加している。また、「買い物に不便」と回答した人が25.9%と全体の3割近く存在する事がわかった。さらに、創価大学において「交通・買い物に関するアンケート調査」を実施したところ、「食品などを購入する際の交通手段についてどう感じているか」という質問に対して、4割近くの学生が「苦痛・非常に苦痛」と回答した。

（2）八王子市域内の買い物弱者に対しては移動販売車による対策はなされているとはいえ、カバーされていない地域が多くある。また、上述のアンケート調査でも、「スーパーは家から行きやすい距離にありますか」という質問に対して、６割の学生が「ない」と回答している。

以上の検討から、域内交通と日常の買い物先が八王子市の課題となっていることがわかる。これらの課題を解決するため、本報告は路線バスと商品販売を兼ね備えた「マルシェバス」を提案する。また、交通弱者と買い物弱者の問題は八王子市だけではなく、他の地域も抱えている問題であるため、本報告の提案は波及効果もあると考える。

３．政策提案

以上のように、本報告は路線バスと商品販売を兼ね備えたマルシェバス、すなわち「はちまるびん」を提案する。「はちまるびん」という名称は、八王子の「はち」、フランス語で市場を表す「マルシェ」の「まる」、もの・ひとを運ぶ「便」の「びん」という要素を組み合わせたものである。

「はちまるびん」は、バスの前方に座席を設置、後方を改造し、棚を設置し商品を陳列するというものである（図1参照）。

図1　はちまるびんのイメージ

出典：https://trafficnews.jp/photo/114769#photo4

以下、政策提案の内容について、本項目では、①ターゲット、②提供するサービス、③提供方法、④提供する際の仕組み、⑤ルートと販売場所、⑥事業運営の仕組みという順番で説明していく。

（1）ターゲット

地域と世代という2つの観点から、ターゲットを絞り込んでいく。第1に、バスの路線や本数が少なく、スーパーが近くにない地域を対象とする。具体

的には北部地域と西南部地域である（図2参照）。これらの地域を対象としたのは、①公共交通の空白・不便な地域であり、かつ②買い物困難（スーパーがなく移動販売車もない）地域であるという理由からである。実際に、「八王子市公共交通計画」において、上記の地域には交通空白・不便地域が多い。また「八王子移動販売車実施場所ガイドブック」においても、上記の地域にはスーパーが少なく移動販売車によるカバーも空白となっているところが多い。

第２に、高齢者と学生という世代を対象とする。これらの世代を対象としたのは、①自家用車による移動が困難である人が多く、かつ②日常の買い物にも困っている人が多いという理由からである。

（2）何を提供するのか

比較的安価な公共交通サービスを提供するとともに、生鮮食品・生活用品といった日常的買い物サービスを提供する。

（3）どのように提供するのか

≪路線バス≫

通常の路線バスとして提供し、運賃は一律200円程度に抑える。この価格設定は、利用者の規模拡大と商品販売の収益によって実現可能であると考える。

また、その他の財源として「地域公共交通確保維持改善事業」（国交省補助金）、「食品等流通持続化モデル総合対策事業」（農水省補助金）、「地域支援事業」（厚労省補助金）なども活用していく。

≪商品販売≫

中古バスの後方を改造し、商品を陳列する。精算にはスーパーのセルフレジを使用する。商品の価格はスーパーと同程度を想定している。

なお移動中の販売はできないため、決められた場所（出発前・中継地点・終点など）で一定時間内に購入してもらう。

≪営業時間・運行本数・所要時間・買い物の時間≫

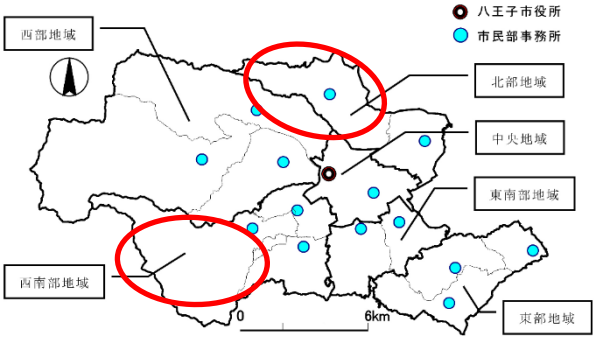
「はちまるびん」の営業時間は「10：00～17:00」とし、運行本数は午前1本（10：00）、午後2本（13：30・16：30）の「1日3本」とする。バスの所要時間は40分程度とし、買い物の時間は15分程度とする。

（4）提供の仕組み

サービス提供の仕組みは利用者の特性に応じて3つのパターンに分類できる。

①路線バスと買い物の両方の利用者に対しては、運賃は一律200円としたうえで、商品購入時の手数料も無料とする。②路線バスのみの利用者に対しては、運賃は一律250円とする。③買い物のみの利用者に対しては、商品購入時の手数料として1回につき100円を徴収する。

図2　はちまるびんの対象地域



出典：八王子市都市政策研究所（2011）

（5）バスのルートと販売場所

バスのルートは次の2つのルートを想定している。

1つ目は北部ルートである。このルートは「八王子駅→梅坪町→丹木町（創価大学）→工学院大学→中野町→八王子駅」という路線である。商品の販売場所は、創価大学と多摩病院とする。

2つ目は西南部ルートである。このルートは「高尾駅→狭間町→館町→拓殖大学」という路線である。商品の販売場所は、舘ケ丘団地と拓殖大学とする。

（6）事業運営の仕組み

事業運営は八王子市、バス会社、スーパー、社会福祉協議会の4者によって行う。これらの主体は「はちまるびん」によって、地域課題の解決、旅客需要の掘り起こしとバス事業以外の収益基盤、販路拡大、地域貢献というメリットを得る。

事業運営の経営基盤は①バス利用者からの運賃収入と②買い物利用者からの販売収益の2本柱となる。交通と買い物のどちらか一方の収益だけでは運営は厳しいが、両方から売り上げを得ることができれば安定的な運営が可能となる。

とはいえ、事業継続には地域住民や大学への周知と利用促進が必要である。具体的には、路線バスの車内や大学内での告知を進めると同時に、バスファンやマスメディアへの周知を図っていく。

4. おわりに

本報告は、交通弱者と買い物弱者の課題を解決する政策として、路線バスと商品販売を兼ね備えた「はちまるびん」を提案した。これらの問題は全国共通であることから、「はちまるびん」は他の自治体にとっての先進事例となり、八王子のブランドイメージの向上にも貢献できると考える。

＜参考文献＞

・八王子市（2017）「八王子市公共交通計画」
・八王子市（2023）「第55回　令和5年（2023年）市政世論調査結果報告書」
・八王子市社会福祉協議会（2021）「八王子移動販売車実施場所ガイドBOOK」
・八王子市都市政策研究所（2011）「八王子市の地域分析調査」